

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス リンク エイト			
○保護者評価実施期間	令和7年3月10日		～	令和7年3月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年4月10日		～	令和7年4月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や気持ちに丁寧に関わり添う支援、そして保護者との信頼関係の構築を大切にしている点が大きな強みです。通所を楽しみにする子どもや、安心して相談できると話してくださる保護者の声も多くあります。	日々の連絡帳や送迎時の対話、定期的な面談・アンケートなどを通じて保護者の声を丁寧に受け止めています。また、活動内容が固定化しないように工夫し、季節感や子どもの興味に応じたプログラムを取り入れています。	保護者同士の交流機会や家族支援イベントを企画し、家庭への支援体制をさらに強化していきます。支援内容をわかりやすく伝えるツールの見直しも行い、共通理解を深める取り組みを進めます。
2	女の子支援に特化していることが他にはない特色であり、表現力や感情理解、人間関係の構築といった分野で個性の高い支援が行えています。年齢や発達段階に合わせた安心感のある支援が可能です。	美容・ファッション・表現活動など、女の子の興味を活かし、内容を盛り入れ、自己肯定感を育めるようにしています。また、感情の言語化や自己表現の場づくりを意識し、自然体で過ごせる関係性を築いています。	思春期支援やセルフケアに関する外部研修や医療的な連携体制を強化し、年齢に応じた専門的な支援の幅を広げていきます。外部講師との協働も検討しています。
3	職員間の連携がよく、支援に一貫性と安定感があること、安全管理や緊急時対応の体制が整っていることが強みです。また、地域とのつながりを活かした交流活動も積極的に実施しています。	ケース会議や朝礼・終礼での情報共有を徹底し、新人育成にも丁寧に取り組んでいます。避難訓練やマニュアルに基づく対応も定期的に実施し、保護者への報告体制も明確にしています。	スーパービジョンの導入や職員向けの危機管理研修を定期的に行い、支援の質と安全対応力の向上を図っていきます。また、地域資源を活かした社会参加の機会も継続的に提供していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部の職員に業務や判断が集中しており、現場全体の負担や属人化のリスクがある。	複数拠点の運営や拡大に伴い、管理職の数と育成が追いついておらず、役割分担が偏りやすい状況になっている。	マニュアル整備やOJTの強化、サブリーダー制度の導入により、中核職員の育成と業務の平準化を進めていく。
2	支援記録や報告書の作成など、事務的な業務が職員の負担になり、本来の支援時間を圧迫することがある。	複数事業所での記録様式の統一がされておらず、記録方法や業務フローが個人に委ねられている場面も多いことが要因。	ICTの導入や記録様式の簡素化・統一化、事務補助スタッフの配置などを検討し、支援業務に集中できる環境整備を進める。
3	職員の経験や知識に差があり、支援の方法や対応にばらつきが見られることがある。	新人職員や異業種からの転職者が多く、基本的な支援スキルの定着に時間がかかっている。	定期的な内部・外部研修の実施、先輩職員によるロールモデルの提示、ケース共有会などを通じて支援力の向上を図っていく。